

第73回全国レクリエーション大会in宮城2019開催要項

大会
スローガン

ありがとう 復興進む 伊達のまち。 みんなのチカラ レクぢから。

趣 旨

本大会は、国民一人ひとりの幸福で豊かな生活の形成を目標としたレクリエーション運動推進の一環として、生涯を通して楽しみ、喜びを味わえるレクリエーション活動を体験し、全国からの参加者と開催地住民との交流を図り、さらに全国各地及び専門領域におけるレクリエーションに関する研究、実践の成果を結集することにより、今後の生涯スポーツ・生涯学習の振興とレクリエーション運動の活性化に資することを目的とします。

期 日

令和元年 9月13日(金)～9月15日(日)

会 場

宮城県内各会場（仙台市、多賀城市、岩沼市、川崎町、利府町、大衡村）

主 催

公益財団法人日本レクリエーション協会／特定非営利活動法人宮城県レクリエーション協会／宮城県／宮城県教育委員会／仙台市／多賀城市／岩沼市／川崎町／利府町／大衡村／地域レクリエーション協会

共 催

スポーツ庁

主 管

第73回全国レクリエーション大会 in 宮城2019実行委員会

後 援

総務省／環境省／厚生労働省／経済産業省／国土交通省／林野庁／人事院／(一財)日本宝くじ協会／(公財)日本スポーツ協会／(公財)日本障がい者スポーツ協会／(公社)全国スポーツ推進委員連合／(一社)日本新聞協会／(社福)全国社会福祉協議会／(公財)健康・体力づくり事業財団／日本レジャー・レクリエーション学会／(公財)宮城県スポーツ協会／(福)宮城県社会福祉協議会／宮城県障害者スポーツ協会／宮城県スポーツ推進委員協議会／宮城県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会／(公財)仙台市スポーツ振興事業団／河北新報社／朝日新聞仙台総局／毎日新聞仙台支局／読売新聞東北総局／産経新聞社東北総局／NHK 仙台放送局／TBC 東北放送／仙台放送／ミヤギテレビ／KHB 東日本放送／エフエム仙台

協 力

(公財)日本レクリエーション協会加盟団体／(公社)日本観光振興協会／(公財)全国老人クラブ連合会／(公社)日本オリエンテーリング協会／(公社)日本キャンプ協会／(一財)日本ユースホステル協会／特定非営利活動法人宮城県レクリエーション協会加盟団体／日本レクリエーション協会公認指導者養成課程認定校／スポーツコミッションせんだい ほか

特別共催

東北福祉大学

参加対象

県民／公益財団法人日本レクリエーション協会公認指導者／公益財団法人日本レクリエーション協会加盟団体関係者／地域・行政等の生涯スポーツ・レクリエーション関係者／余暇行政等関係者／学校教育・幼児教育・社会教育関係者／福祉領域におけるレクリエーション関係者など

参加費

一人 2,000 円(学生 1,000 円、中学生以下無料)
[交歓の夕べ]参加費は、別途 6,000 円

プログラム

令和元年9月13日（金）

プログラム	予定会場	主な内容
総合開会式	東京エレクトロンホール宮城	表彰、アトラクション等
種目別全国交流大会	（9月14日と同じ）	
交歓の夕べ	仙台サンプラザホール	情報交換会

令和元年9月14日（土）

プログラム	予定会場	主な内容
種目別全国交流大会	セキスイハイムスーパーアリーナ、カメイアリーナ仙台ほか、県内スポーツ施設	各種目団体による全国交流大会 インディアカ、キンボールスポーツ、クリケット、3B体操、スポーツチャンバラ、タッチラグビー、ティーボール、日本民謡、パドルテニス、フォークダンス、ユニカール、レクリエーションダンス ※ 一部、13日、15日開催の種目有り。
特別協賛行事	青葉体育館、泉体育館、多賀城緑地公園、おおひら万葉パークゴルフ場、国営みちのく湖畔公園ほか、県内スポーツ施設	各種目団体による大会 カントリーラインダンス、カップ、ターゲットバードゴルフ、ディスコン、パークゴルフ、フライングディスク、レクリエーションボールルームダンス、※ 一部、15日開催の種目有り。
研究フォーラム	東北福祉大学 仙台駅東口キャンパス	福祉／健康長寿／コミュニケーション／地域おこし／子ども・教育等のワークショップなど
特別行事	勾当台公園いこいのゾーン、岩沼総合体育館ほか	みやぎ・せんだい食の広場、ニューススポーツ体験、キッズステージ、ウォークラリー、被災地ツアーなど
協賛行事	県内各施設	関係機関・団体が大会の趣旨に賛同して自主的に開催する行事

令和元年9月15日（日）

プログラム	予定会場	主な内容
種目別全国交流大会	（9月14日と同じ）	
特別協賛行事	（9月14日と同じ）	
研究フォーラム	（9月14日と同じ）	
閉会式	東北福祉大学 仙台駅東口キャンパス	次期開催県への大会旗引継ぎ等

第73回全国レクリエーション大会in宮城2019実行委員会規約

(名称)

第1条 この会は、第73回全国レクリエーション大会in宮城2019実行委員会（以下、「本会」という。）と称する。

(目的)

第2条 本会は、第73回全国レクリエーション大会in宮城2019（以下、「大会」という。）を円滑に開催するために必要な事業を行うことを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 大会の総合計画に関すること。
- (2) 大会予算の編成及び執行に関すること。
- (3) 関係機関及び団体との連絡調整に関すること。
- (4) その他重要な事項に関すること。

(組織)

第4条 本会は、次に掲げる者のうちから、本会会長（以下、「会長」という。）が委嘱した委員をもって構成する。

- (1) 大会の開催に関係する機関又は団体の関係者
- (2) レクリエーションについて学識経験を有する者
- (3) その他会長が必要と認める者

(役員)

第5条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
 - (2) 副会長 若干名
 - (3) 監事 若干名
- 2 会長は、特定非営利活動法人宮城県レクリエーション協会会長をもって充てる。
- 3 副会長は、委員のうちから会長が指名する。
- 4 監事は、会長が委嘱する。

(役員の仕事)

第6条 会長は、本会を代表し、会務を総理する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、あらかじめ会長が定めた順序によってその職務を代行する。
- 3 監事は、本会の会計を監査する。

(任期)

第7条 委員及び役員の任期は、委嘱された日から、本会の解散する日までとする。

- 2 前条の規定に関わらず、委員又は役員（以下、「委員等」という。）が、その属する機関又は団体において、委嘱されたときの役職を離れたときは、当該委員等の任期は当該役職のあった日までとする。
- 3 前項の規定により委員等が欠けたときは、前任者の属していた機関又は団体において、当該者の後任となった者を委員等に委嘱するものとする。

(会議)

第8条 本会の会議は、次のとおりとする。

- (1) 総会
- (2) 運営委員会
- (3) 専門部会

(総会)

第9条 総会は、会長及び委員をもって構成する。

2 総会は、会長が招集し、第3条の各号に掲げる事項について審議し決定する。

3 総会の議長は、会長をもって充てる。

4 総会は、委員の過半数の出席をもって成立する。

5 総会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

6 やむを得ない事由のため、総会に出席できない委員は、代理人に表決を委任することができる。この場合、前項の規定の適用については、出席したものとみなす。

(運営委員会)

第10条 本会に、大会開催にかかる計画の立案及び総合調整を行うため、運営委員会を設置する。

2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める

(専門部会)

第11条 運営委員会から付託された専門的事項を調査審議するため、専門部会を設置する。

2 専門部会の種類及び付託事項は、別表のとおりとする。

3 その他専門部会に関し必要な事項は、別に定める。

(専決処分)

第12条 会長は、総会を招集するいとまがないと認めるとき、又は総会の権限に属する事項で軽易なものについては、これを専決処分することができる。

2 会長は、前項の規定により専決処分したときは、これを次回の総会において報告しなければならない。

(事務局)

第13条 本会の事務を処理するために、事務局を特定非営利活動法人宮城県レクリエーション協会内に置く。

2 事務局に関し必要な事項は、別に定める。

(経費)

第14条 本会の経費は、参加費、負担金、助成金及びその他の収入をもって充てる。

(予算及び決算)

第15条 本会の予算は、総会の議決により定め、決算は監事の監査を経て、総会の承認を得なければならない。

(解散)

第16条 本会は、大会が終了し、その清算事務が完了したときをもって解散する。

(委任)

第17条 この規約に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

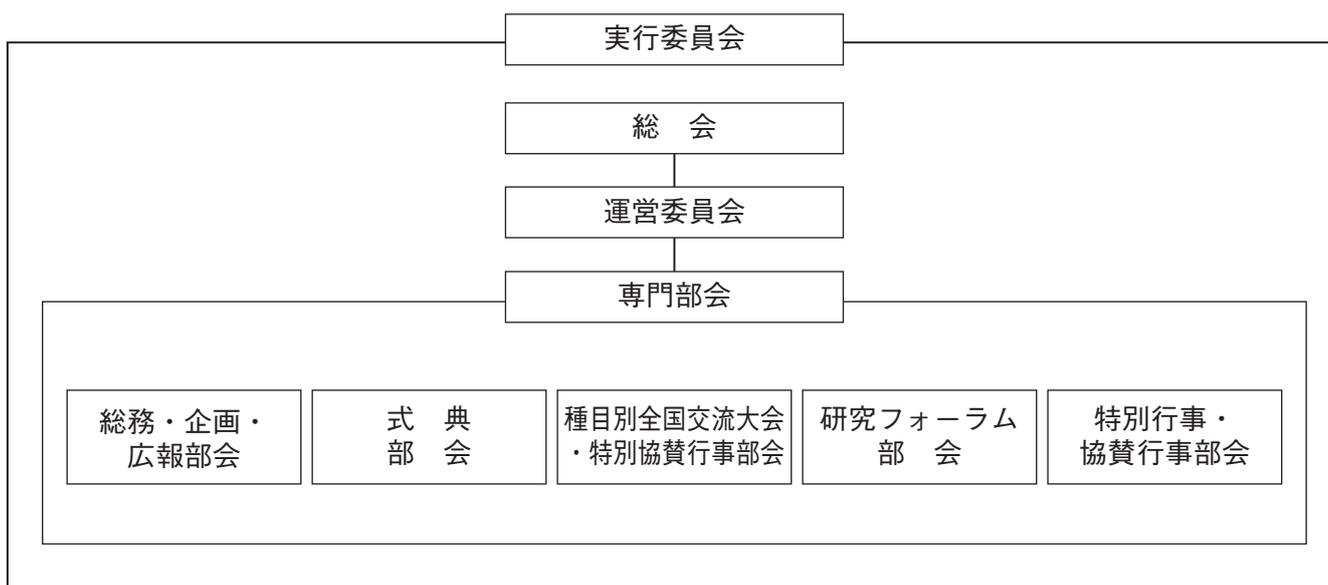
附 則

この規約は、令和元年5月27日から施行する。

別表（第11条関係）

部会別	主な内容
総務・企画・広報部会	<ul style="list-style-type: none"> ・大会開催の総合計画に関すること。 ・関係機関及び関係団体との調整に関すること。 ・予算及び決算等に関すること。 ・大会参加記念品及びスタッフユニフォーム等に関すること。 ・大会参加者の宿泊・輸送及び駐車場に関すること。 ・チラシ・ポスター、広報及び報道機関調整等に関すること。 ・募集要項に関すること。 ・総合プログラム及び報告書に関すること。 ・危機管理及び救護等に関すること。 ・総合案内・誘導、歓迎装飾に関すること。 ・ボランティアの確保、配置に関すること。 ・他の部会に属さない事項全般に関すること。 ・その他総務・企画・広報全般に関すること。
式典部会	<ul style="list-style-type: none"> ・総合開会式・閉会式の企画及び運営に関すること。 ・交歓の夕べの企画及び運営に関すること。 ・アトラクションの企画及び運営に関すること。 ・その他式典等の全般に関すること。
種目別全国交流大会・特別協賛行事部会	<ul style="list-style-type: none"> ・種目別全国交流大会の企画及び運営に関すること。 ・特別協賛行事の企画及び運営に関すること。 ・関係団体との連絡調整等に関すること。 ・利用会場の確保、調整に関すること。 ・その他種目別全国交流大会及び特別協賛行事の全般に関すること。
研究フォーラム部会	<ul style="list-style-type: none"> ・研究フォーラム等の企画及び運営に関すること。 ・研究フォーラム等の会場調整に関すること。 ・講師・助言者・事例発表者の選定、連絡調整等に関すること。 ・その他研究フォーラム等の全般に関すること。
特別行事・協賛行事部会	<ul style="list-style-type: none"> ・特別行事の企画及び運営に関すること。 ・協賛行事の企画及び運営に関すること。 ・利用会場の確保、調整及び関係団体との連絡調整に関すること。 ・その他特別行事・協賛行事の全般に関すること。

[実行委員会組織図]



第73回全国レクリエーション大会in宮城2019運営委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、第73回全国レクリエーション大会in宮城2019実行委員会（以下、「実行委員会」という。）規約（以下、「規約」という。）第10条の規定に基づき、運営委員会（以下、「委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) 規約第8条に規定する総会（以下、「総会」という。）での審議事項
- (2) 規約第8条に規定する専門部会への付託事項
- (3) 総会を招集するいとまがないと認められる事項
- (4) その他委員会の運営について実行委員会会長（以下、「会長」という。）が認めた事項

2 前項により審議したときは、その結果を会長に報告するものとする。

(組織)

第3条 委員会は、会長が指名した委員をもって組織する。

(役員)

第4条 委員会に次の役員を置く。

- (1) 委員長 1名
- (2) 副委員長 若干名

2 委員長は、会長があたる。

3 副委員長は、委員のうちから委員長が指名する。

4 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代行する。

(任期)

第5条 委員長、副委員長及び委員の任期は、規約第7条の規定を準用する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(その他)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関して必要な事項は、委員長が会長に諮って定める。

附 則

この規程は、令和元年5月27日から施行する。

第73回全国レクリエーション大会in宮城2019専門部会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、第73回全国レクリエーション大会in宮城2019実行委員会（以下、「実行委員会」という。）規約（以下、「規約」という。）第11条の規定に基づき、専門部会（以下、「部会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 部会は、規約第8条に規定する運営委員会（以下、「運営委員会」という。）から付託された専門的事項について調査審議し、その結果を運営委員会に報告しなければならない。

(組織)

第3条 部会は、実行委員会会長（以下、「会長」という。）が指名した部会員をもって組織する。

(役員)

第4条 部会に次の役員を置く。

(1) 主任 1名

(2) 副主任 若干名

2 主任は、運営委員会委員長が指名する。

3 副主任は、部会員のうちから主任が指名する。

4 主任は、部会を代表し、会務を総理する。

5 副主任は、主任を補佐し、主任に事故あるときは、その職務を代行する。

(任期)

第5条 主任、副主任及び部会員の任期は、規約第7条の規定を準用する。

(会議)

第6条 部会の会議は、主任が招集し、主任が議長となる。

2 部会の議事は、出席部会員の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(その他)

第7条 この規程に定めるもののほか、部会の運営に関して必要な事項は、主任が会長に諮って定める。

附 則

この規程は、令和元年5月27日から施行する。

第73回全国レクリエーション大会in宮城2019事務局規程

(趣旨)

第1条 この規程は、第73回全国レクリエーション大会in宮城2019実行委員会（以下、「実行委員会」という。）規約（以下「規約」という。）第13条の規定に基づき、事務局に関する事項を定める。

(業務)

第2条 事務局は、次の各号に掲げる事務を処理する。

- (1) 事業計画に基づく事務に関する事
- (2) 収入及び支出に係る事務に関する事
- (3) その他庶務全般に関する事

(職員)

第3条 事務局に次の職員を置く。

- (1) 事務局長 1名
- (2) 事務局次長 1名
- (3) 事務局員 若干名

2 前項に掲げる職員は、実行委員会会長（以下、「会長」という。）が委嘱する。

(職務)

第4条 事務局長は、会長の命を受け、事務局の事務を掌理し、職員を指揮監督する。

2 事務局次長は、事務局長を補佐し、事務局長に事故あるときは、その職務を代行する。

3 事務局員は、上司の命を受け、事務を処理する。

(文書の整理)

第5条 文書には、記号及び一連番号を付し、文書件名簿をもって整理しなければならない。ただし、軽易な文書については、これを省略することができる。

2 文書記号は「73全レク宮城」とする。

(公印)

第6条 事務局は、公印を作成し、事務局長が保管するものとする。

(金融機関の指定)

第7条 現金の出納は、事務局長が指定する金融機関を通じて行うものとする。

(補則)

第8条 この規程に定めるもののほか、事務局の運営に関し必要な事項は、事務局長が別に定める。

附 則

この規程は、令和元年5月27日から施行する。

大会役員

役職名	氏名	所属/職名	役職名	氏名	所属/職名
名誉総裁	三笠宮百合子妃殿下		会長	樋口 修資	公益財団法人日本レクリエーション協会 理事長
名誉会長	柴山 昌彦	文科科学大臣	副会長	瀧本 寛	スポーツ庁次長
	村井 嘉浩	宮城県知事		丸山 正	公益財団法人日本レクリエーション協会 副理事長
名誉副会長	鈴木 大地	スポーツ庁長官		熊谷 大	NPO法人宮城県レクリエーション協会 会長
	郡 和子	仙台市長	参 与	安達 栄	スポーツ庁健康スポーツ課 課長
	菊地 健次郎	多賀城市長		小田原 一記	公益財団法人日本レクリエーション協会 専務理事
	菊地 啓夫	岩沼市長			
	小山 修作	川崎町長			
	熊谷 大	利府町長			
	萩原 達雄	大衡村長			
	伊東 昭代	宮城県教育委員会 教育長			

実行委員

役職名	氏名	所属/職名	役職名	氏名	所属/職名
会長	熊谷 大	NPO法人宮城県レクリエーション協会 会長		松本 文明	日本パドルテニス協会 会長
副会長	伊東 昭代	宮城県教育委員会 教育長		笠原 一也	公益社団法人日本フォークダンス連盟 会長
	丸山 正	公益財団法人日本レクリエーション協会 副理事長		田中 祥子	日本ユニカール協会 会長
委員	鈴木 省三	公益財団法人宮城県スポーツ協会 会長		後藤 幸子	公益社団法人日本3B体操協会宮城県支部長
	本木 隆	社会福祉法人宮城県社会福祉協議会 会長		駒木 康伸	宮城県教育庁スポーツ健康課 課長
	小玉 一彦	宮城県障害者スポーツ協会 会長		及川 徹	仙台市文化観光局文化スポーツ部スポーツ振興課 課長
	石川 一美	宮城県スポーツ推進委員協議会 会長		中野 裕夫	多賀城市教育委員会生涯学習課 課長
	手島 牧世	宮城県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 会長		沼田 輝明	岩沼市教育委員会スポーツ振興課 課長
	佐藤 清	公益財団法人仙台市スポーツ振興事業団 理事長		佐藤 邦弘	川崎町教育委員会生涯学習課 課長
	押塚 登貴夫	一般社団法人日本インディアカ協会 会長		高橋 徳光	利府町教育委員会生涯学習課 課長
	高見 彰	一般社団法人キンポールスポーツ連盟 会長		大沼 善昭	大衡村教育委員会生涯学習課 課長
	山田 誠	一般社団法人日本クリケット協会 会長		小田原 一記	公益財団法人日本レクリエーション協会 事務局長
	田邊 哲人	公益社団法人日本スポーツチャンバラ協会 会長	監 事	本多 弘子	NPO法人宮城県レクリエーション協会 顧問代表
	藁谷 友紀	一般社団法人ジャパンタッチ協会 会長		千葉 正広	公益財団法人宮城県スポーツ協会 事務局長
	海部 俊樹	NPO法人日本ティールボール協会 会長		江刺 義夫	NPO法人宮城県レクリエーション協会 監事

運営委員

役職名	氏名	所属/職名	役職名	氏名	所属/職名
委員長	熊谷 大	NPO法人宮城県レクリエーション協会 会長(実行委員会 会長)		黒田 スミ子	NPO法人宮城県レクリエーション協会 理事(式典部会 副主任)
副委員長	佐藤 雄司	NPO法人宮城県レクリエーション協会 副会長(実行委員会 事務局長)		中曾根 裕	NPO法人宮城県レクリエーション協会 理事(式典部会 副主任)
委員	仲野 隆士	NPO法人宮城県レクリエーション協会 副会長(総務・企画・広報部会 主任)		門脇 善三	NPO法人宮城県レクリエーション協会 理事(種目別全国交流大会・特別協賛行事部会 主任)
	山内 直子	NPO法人宮城県レクリエーション協会 事務局長(総務・企画・広報部会 副主任)		酒井 敦子	公益財団法人日本レクリエーション協会 マネージャー(種目別全国交流大会・特別協賛行事部会 副主任)
	泉 俊成	NPO法人宮城県レクリエーション協会 副理事長(式典部会 主任)		金 義信	NPO法人宮城県レクリエーション協会 理事長(研究フォーラム部会 主任)

役職名	氏名	所属/職名
	小池 和幸	仙台市レクリエーション協会 会長 (研究フォーラム部会 副主任)
	木村 博	NPO法人宮城県レクリエーション協会 理事 (特別行事・協賛行事部会 主任)
	田名網 典子	NPO法人宮城県レクリエーション協会 理事 (特別行事・協賛行事部会 副主任)
	佐々木 浩司	宮城県教育庁スポーツ健康課 スポーツ振興専門監

役職名	氏名	所属/職名
	佐藤 俊明	宮城県教育庁スポーツ健康課 主幹 (班長)
	酒井 智紀	宮城県教育庁スポーツ健康課 主幹 (副班長)
	滝沢 越史	宮城県教育庁スポーツ健康課 主幹
	佐藤 繭子	NPO法人宮城県レクリエーション協会 事務局員(実行委員会 事務局員)
	佐藤 聡明	NPO法人宮城県レクリエーション協会 事務局員(実行委員会 事務局員)

専門部会

■ 総務・企画・広報部会

役職名	氏名	所属/職名
主任	仲野 隆士	NPO法人宮城県レクリエーション協会
副主任	山内 直子	NPO法人宮城県レクリエーション協会
委員	浅野 恵美	NPO法人宮城県レクリエーション協会
	小淵 智史	NPO法人宮城県レクリエーション協会
	沼田 桂子	NPO法人宮城県レクリエーション協会
	佐々木 浩司	宮城県教育庁スポーツ健康課
	佐藤 俊明	宮城県教育庁スポーツ健康課
	酒井 智紀	宮城県教育庁スポーツ健康課
	滝沢 越史	宮城県教育庁スポーツ健康課

■ 式典部会

役職名	氏名	所属/職名
主任	泉 俊成	NPO法人宮城県レクリエーション協会
副主任	黒田 スミ子	NPO法人宮城県レクリエーション協会
	中曽根 裕	NPO法人宮城県レクリエーション協会
委員	粕谷 義昭	NPO法人宮城県レクリエーション協会
	千葉 祐輔	NPO法人宮城県レクリエーション協会

■ 種目別全国交流大会・特別協賛行事部会

役職名	氏名	所属/職名
主任	門脇 善三	NPO法人宮城県レクリエーション協会
副主任	酒井 敦子	(公財)日本レクリエーション協会
委員	団体代表者	種目別全国交流大会・特別協賛行事参加団体

■ 研究フォーラム部会

役職名	氏名	所属/職名
主任	金 義信	NPO法人宮城県レクリエーション協会
副主任	小池 和幸	NPO法人宮城県レクリエーション協会
委員	加藤 昭仁	仙台保健福祉専門学校
	高橋 泰徳	東北福祉大学
	平野 貴之	東北福祉大学
	助川 直文	東北福祉大学

■ 特別行事・協賛行事部会

役職名	氏名	所属/職名
主任	木村 博	NPO法人宮城県レクリエーション協会
副主任	田名網 典子	NPO法人宮城県レクリエーション協会
委員	長谷川 孝	NPO法人宮城県レクリエーション協会
	藤村 由喜	NPO法人宮城県レクリエーション協会
	小池 和幸	仙台市レクリエーション協会 (レクパーク)
	黒田 スミ子	仙台市レクリエーション協会 (レクパーク)
	鈴木 陸男	仙台市レクリエーション協会 (レクパーク)
	小林 彰	仙台市レクリエーション協会 (遊びの広場)
	瀬上 柁	仙台市レクリエーション協会 (ウォークラリー)
	和泉 匡倫	多賀城市レクリエーション協会 (ウォークラリー)
	佐藤 晋哉	蔵王町レクリエーション協会 (ウォークラリー)
	舘岡 百合子	しちがはまレクリエーション協会 (ウォークラリー)
	櫻井 佳子	NPO法人宮城県レクリエーション協会 (ウォークラリー)
	中島 まさよ	色麻町レクリエーション協会 (ウォークラリー)
	渋谷 秀樹	いしのまきレクリエーション協会 (あばいんツアー)
	土井 悦子	東松島市レクリエーション協会 (あばいんツアー)
	阿部 弘子	女川町レクリエーション協会 (あばいんツアー)
	矢野 正	とめレクリエーション協会 (あばいんツアー)
	遠藤 静子	おおさきレクリエーション協会 (あばいんツアー)
	阿部 正一	気仙沼市レクリエーション協会 (あばいんツアー)
	佐藤 誠	(一社)宮城県キャンプ協会 (あばいんツアー)
	沼田 みさ子	名取・岩沼市レクリエーション協会 (ニューススポーツ体験)

実行委員会事務局

役職名	氏名	所属/職名
事務局長	佐藤 雄司	NPO法人宮城県レクリエーション協会 副会長
事務局次長	山内 直子	NPO法人宮城県レクリエーション協会 事務局長
事務局員	佐藤 繭子	NPO法人宮城県レクリエーション協会 事務局員
	佐藤 聡明	NPO法人宮城県レクリエーション協会 事務局員

参加者数一覧

大会参加者数（延べ人数）

プログラム	参加者			スタッフ等	合計
	県内	県外	小計	計	
1 総合開会式	218	732	950	100	1,050
2 交歓の夕べ	98	385	483	41	524
3 種目別全国交流大会	1,511	2,166	3,677	358	4,035
4 特別協賛行事	900	194	1,094	51	1,145
5 特別行事	5,329	156	5,485	243	5,728
6 研究フォーラム	143	1,340	1,483	190	1,673
7 閉会式	39	170	209	113	322
合計	8,238	5,143	13,381	1,096	14,477

研究フォーラム

プログラム	県内計	県外計	参加者計
1 災害時レクリエーションのできることで、健康管理／東日本大震災の経験からレクリエーション活動の必要性と今後の在り方	0	20	20
2 実家が東松島市のおのくん（人と人の繋がり支え合うことで18万人へ）	0	9	9
3 車椅子レクダンス	1	30	31
4 東日本大震災・仮設住宅でのレクリエーション活動の効果検証 ～宮城県山元町で実証された、レクリエーション活動～	1	10	11
5 東日本大震災における健康支援とレクリエーション “仙台大学・健康づくり運動サポーターの事例より・備えあれば憂いなし”	3	13	16
6 東北地方で生まれた木地玩具“伝統こけし”に触れる絵付け体験（遠刈田系・鳴子系こけし）	0	10	10
7 「サバ・メシ」＝サバイバル・メシ 災害時に簡単においしく作れる非常食	3	51	54
8 障害の有無を超えて子ども同士が、ともに楽しみ相互理解に役立つレクリエーション活動	2	29	31
9 高齢者の心にはたらきかける音楽レクリエーション	15	79	94
10 初めての研究発表 ～研究レポートのまとめ方～	1	40	41
11 災害復興支援の実践から考えるレクリエーションの価値と可能性 ～被災地に心の元気を届けるレクリエーション支援者たち～	0	14	14
12 被災地に広がった「心があたたか！笑顔満載のレクリエーション」	1	45	46
13 心を元気にするアイスブレイキング、ホスピタリティとは？ ～新カリキュラムに対応した実技をみなさんと一緒にブラッシュアップ～	6	64	70
14 余暇マイスター大集合 新時代を捉えた新たな余暇支援ソフトの発表	3	24	27
15 学生の成長につながるレクリエーション科目の活用方法 －レクリエーション教育の有効性を考える－	1	57	58
16 「共生社会」を創りだすために「協働」しよう！	4	12	16
17 参加者（障がい者を含む）に応じたスポーツ・レクリエーション活動の工夫と実際	2	26	28
18 スポーツ・イン・ライフの実現！ 年齢や性別、障がいの有無に関わらず誰もが楽しめる元気アップ・プログラム!!	1	17	18
19 レクリエーションの価値を高め、効果的に教授するための研究発表 課程認定校教員向けセッション	5	48	53
20 レクリエーションの価値を高め、効果的に教授するための研究発表 課程認定校教員向けセッション	6	36	42
21 学生の学びを深めるレクリエーション授業情報交換会 課程認定校教員向けセッション	0	42	42
22 評価高まり、広がり見せる健康スポレクひろば	1	13	14
23 知ろう！活かそう！レクリエーションのひみつ ～レクリエーション・サポーター登録制度を活用して仲間の輪を広げよう～	2	21	23
24 音楽レクリエーションは人と人をつなぐ架け橋 一歌の力で時代、故郷、人生をふり返り、共有するー	16	77	93
25 身近なものでレク・アクティビティあれこれ	1	63	64
26 レクリエーションソングの原点に立ち返る ～子どもから高齢者まで楽しめる歌遊び、手遊びを皆様と共に～	11	72	83
27 笑って歌ってアイデア満載！介護予防レク講座	11	47	58
28 GWT 名画が語る ～名画をとおして自分と他者に向き合う～	0	14	14
29 復興を支える音楽レクリエーション ～東日本大震災と原発事故によって避難を余儀なくされた避難者の元気づくりと絆づくりに、音楽レクリエーションはどのように役立ったか～	2	41	43
30 まず楽しい、益々ハマる、マス目レク 紙・ペンあれば、すぐできる	8	53	61
31 笑いを使った心と脳を元気にする「レクリエーション・トーク術」 「楽しく 笑って 健康に！」	7	64	71
32 ～いつでも 気軽に 自分でできる 健康延伸～ あっと驚く 猫背、骨盤矯正ストレッチ 「中指の不思議！」	13	53	66
33 障がいのある方とない方とのレクは地球を救う！ すべては人のつながりから	1	16	17
34 癒し・癒され・患者さんとの楽しい時間 一介護療養型医療病棟でのレクリエーション活動ー	7	42	49
35 「チラシのゴミ箱」を使って楽しく遊ぶ支援方法 ～介護の現場ですぐに使える、心温まるレクリエーションの支援法～	8	88	96
計	143	1340	1483

種目別全国交流大会

プログラム		県内計	県外計	参加者計
101	インディアカ	59	313	372
102	キンボールスポーツ	185	76	261
103	クリケット	0	34	34
104	3B体操	321	0	321
105	スポーツチャンバラ	17	79	96
106	タッチラグビー	24	8	32
107	ティーボール	132	0	132
108	日本民謡	93	430	523
109	バドミントン	62	230	292
110	フォークダンス	252	209	461
111	ユニカール	15	250	265
112	レクリエーションダンス	351	537	888
計		1511	2166	3677

特別協賛行事

プログラム		県内計	県外計	参加者計
201	カントリーラインダンス	38	19	57
202	クッブ	113	0	113
203	ターゲット・バードゴルフ	43	37	80
204	ディスコン	83	71	154
205	パークゴルフ	262	26	288
206	フライングディスク（種目ディスクゴルフ）	12	13	25
207	レクリエーションボールルームダンス	349	28	377
計		900	194	1094

特別行事

プログラム		県内計	県外計	参加者計
301	仙台 政宗 伊達な街ウォークラリー	0	116	116
302	感謝!!『あばいんツアー』3.11メモリアル小さなバス旅	2	40	42
	戦国一のグルメ 伊達政宗 みやぎ・せんだい食の広場、みんな笑顔に！ニューススポーツ体験会	4600	0	4600
	キッズステージ	627	0	627
	笑顔で元気に！ニューススポーツ体験コーナー（岩沼会場）	100	0	100
計		5329	156	5485

都道府県別参加人数一覧

都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数
北海道	86	東京都	245	滋賀県	37	香川県	4
青森県	145	神奈川県	150	京都府	3	愛媛県	9
岩手県	120	新潟県	78	大阪府	27	高知県	41
宮城県	1562	富山県	24	兵庫県	70	福岡県	23
秋田県	98	石川県	11	奈良県	5	佐賀県	1
山形県	145	福井県	6	和歌山県	2	長崎県	6
福島県	279	山梨県	4	鳥取県	12	熊本県	32
茨城県	56	長野県	14	島根県	32	大分県	19
栃木県	100	岐阜県	24	岡山県	17	宮崎県	10
群馬県	37	静岡県	61	広島県	29	鹿児島県	6
埼玉県	313	愛知県	43	山口県	5	沖縄県	12
千葉県	87	三重県	36	徳島県	14	海外	4
合計							4144

全国レクリエーション大会のあゆみ

第1回	石川県	昭 22.10.27～29	第2回国民体育大会を機に第1回大会を開催「日本レクリエーション協議会」発足、森戸文部大臣らの講演、スポーツやダンスの講習会など多彩に展開。
第2回	福岡県	昭 23.10.23～29	前回と同じく、第3回国民体育大会開催地福岡市で、日本レクリエーション協会と称して開催。世界レク会議の日本招へい、機関誌の発行などが提案された。
第3回	東京都	昭 24.10.26～29	「会議は日本の総意を必要とし、世はその結論に期待する」を大会モットーに、戦後の経済的、精神的混乱いまだしとの立場から、体制の確立と大会の意義を再確認。
第4回	北海道	昭 25.7.24～27	国民体育大会から離れて単独で開催。学会を始め労働・教育・社会各段の代表者、各地の指導者1千余名が参加。全国芸能大会をはじめ多彩な行事が展開された。
第5回	和歌山県	昭 26.8.2～7	6日間の長期にわたって開催。宗教・芸術・経済・道徳・自然科学・保護等とレクをテーマに分科会がもたれた。「若いあこがれ（佐久方毅氏）」を制定。
第6回	熊本県	昭 27.8.20～26	県内260名、県外1,500名以上が参加。レクリエーションの在り方、余暇の善用について研究討議。エリートづくりよりも多数の参加によるスポーツが叫ばれた。
第7回	栃木県	昭 28.8.20～21	大会テーマは「平和とレクリエーション」。時あたかも朝鮮戦争の休戦が調印された。三笠宮総裁「レクリエーションの種目と歴史的展望」と題して御講演。
第8回	宮城県	昭 29.8.11～14	「歴史小説について（中山義秀氏）」などの研究発表。芸能大会ははなやかに開催。研究テーマとして「農山村のレクリエーション」。レクリエーションの生活化を協調。
第9回	宮崎県	昭 30.11.12～15	分科会「婦人のレクリエーション運動について」ほか。勤労青少年に対する野外活動振興に大きな示唆を与え、また「ひえつき節」の全国的普及に力を尽くした。
第10回	大阪府	昭 31.11.6～9	勤労青少年に「中小企業における」レクリエーション振興、および家庭婦人のレクリエーションを主要テーマに討議。国際レクリエーション協会の理事国となり、国際色がうち出された。
第11回	広島県	昭 32.8.20～23	研究テーマは「社会的緊張とレクリエーション」。神武・高天原につづいてなべ底景気の年。広島県レクリエーション協会設立後8年の地道な運動の成果が大会に反映。
第12回	愛知県	昭 33.8.3～6	「レクリエーションが人間形成にいかなる貢献をするか」が統一研究課題。シンポジウム・講演・分科会を軸にレクリエーションの本質と意義の解明がなされた。
第13回	神奈川県	昭 34.8.3～6	「レクリエーション振興のための組織の強化」をテーマに、各分野ごとに展開されている活動の、一層の進展と組織強化を討議。第1回のアジアレクリエーション大会を同時開催。
第14回	北海道	昭 35.8.3～6	大会テーマは「生産活動とレクリエーション」。講演式討論会が取り入れられ、「与えられたレクリエーションからの脱皮」をめざして、職場・地域社会等のレクリエーションを再検討。
第15回	新潟県	昭 36.8.18～21	「婦人とレクリエーション」をはじめ4つの分科会、当時、激増の傾向にあった観光旅行の望ましいあり方をめぐって、「観光とレクリエーション」が研究課題としてとりあげられる。
第16回	鳥取県	昭 37.7.1～4	「純農山漁村部会」・「都会部会」・「企業部会」の研究協議会をはじめ、高原を会場に15の分科会。参加者は全国各地から1,500名にのぼった。
第17回	福井県	昭 38.8.1～4	「現代社会におけるレジャーの意義（松下正寿氏）」の特別講演。初の試みである「レクリエーション教室」が好評。交歓の夕べには地元関係者5千人が参加。
第18回	兵庫県	昭 39.9.30～10.1	オリンピックムードの中、開催。大会終了の翌日、第1回世界レクリエーション大会関西地区で開催。「生活の科学化とレクリエーション（氏家寿子氏）」の講演。六甲山登山。
第19回	山形県	昭 40.10.14～17	「明日の生活とレクリエーション（平沢和重氏）」の講演をはじめ、13の分科会、5部門のシンポジウム・13のレクリエーション教室。研究内容がより細分化・専門化され、多岐にわたる。
第20回	長崎県	昭 41.11.18～20	「次の20年の躍進をめざして」開催。選定歌「明るい日には」発表。大河内一男氏の「余暇」と題した講演をはじめ、研究協議、実技教室など多彩。
第21回	滋賀県	昭 42.3.18～20	自然破壊のアンチテーゼとして「自然とレクリエーション」を中心課題にかかげた。「野外レクリエーションの将来」と題したシンポジウムをはじめ、分科会、実技教室など多彩。
第22回	千葉県	昭 43.10.26～28	「体力づくり」を再確認しようと、医学・体育・行政面からも迫った。安西愛子氏の「暮らしにリズム」の特別講演は好評。アジア・レクリエーション会議も同時開催された。
第23回	岡山県	昭 44.11.15～17	「変貌する社会とレクリエーション」をテーマにシンポジウム、各研究協議会が活発に行われた。木崎国嘉氏が「スポーツはいかにあるべきか」の講演。
第24回	山梨県	昭 45.8.23～25	「人間にとってレジャーとはなにか」のシンポジウム。坂上次郎・上坂冬子・石田弘義・弦巻敏夫の4氏。池田弥三郎氏の「あそびの倫理」と題した講演など。
第25回	北九州市	昭 46.11.5～7	「生活環境レクリエーション」と題したシンポジウム（石垣純二氏ら55名）講演「レクリエーションの未来ー人間性とレジャー（小松左京氏）ほか14研究協議会に成果。
第26回	東京都	昭 47.11.11～13	テーマ「レクリエーションで結ぶ国民の広場ーより高い福祉団体社会の建設をめざして」。レクリエーション関係団体の協調が特色。

全国レクリエーション大会のあゆみ

第 27 回	茨城県	昭 48.11.25～27	「豊かな生活をつくるコミュニティ・レクリエーション—なかまど健康といきがいと—」人間にとって真の豊かさとは…をさぐった。
第 28 回	佐賀県	昭 49.11.1～3	「個性あるレクリエーションの創造を求めて—指導者・仲間・場所づくり—」の大会テーマのもとに研究協議・シンポジウム・実践活動の展開。あらためてレクリエーションの意義について問い直した。
第 29 回	徳島県	昭 50.11.21～23	「レクリエーションを今いちど原点で」をテーマとして、素朴な手づくりのよさを再確認し、形式に陥ることなく、明るく豊かな生活を追求した。
第 30 回	秋田県	昭 51.10.2～4	「ふるさとに たしかな あすを」ふるさとははぐくまれた伝統的なレクリエーションを見直し、豊かな健康生活の復元と余暇時間の創造を図ろうとするものである。
第 31 回	富山県	昭 52.9.9～11	「コミュニティに連帯と生きがい」をテーマとして、コミュニティづくりに貢献できるレクリエーションのありかたを探る。研究協議、実践発表、県内実践活動を中心にしたのが特徴。
第 32 回	神奈川県	昭 53.10.6～8	「コミュニティに新しいふるさとを」をテーマに地域に根ざした、スポーツ・レクリエーション活動の日常化をはかる。大会テーマについて長州一氏が講演、国際色豊かなシンポジウム、実践活動が特徴。
第 33 回	山口県	昭 54.11.7～9	「ふるさとにスポーツの輪を」をテーマとしてスポーツ・レクリエーションを地域社会にどのように定着させるのかを研究した。また野外活動関係種目等の全国講習会、大会を大幅に取り入れた大会であった。
第 34 回	石川県	昭 55.8.1～3	「太陽と緑・さわやかな汗とふれあい」をテーマに、地域に根ざした文化芸能も加えて、これからの生きがいと豊かさをめざした幅広いレクリエーション活動の実践の方法を研究した。
第 35 回	埼玉県	昭 56.11.7～9	「健やかな心とからだで住みよいまちを」をテーマにレクリエーション活動の日常化を図り、心とからだの健康をとりもどし、人間関係を深め、明るく豊かなまちづくりを推進するための理論と実践方法を研究し、今後の運動の方向を確認した。
第 36 回	大分県	昭 57.10.30～11.1	「ふるさとづくりを健康の輪で」を大会テーマに心身の健康活動を推進しようと、4市で実践活動と13種目の活動を実践し、レクリエーション活動の浸透と振興に努めた結果、レクリエーション実践の気運が県内に盛り上がった。
第 37 回	大阪府	昭 58.10.29～31	「21世紀をひらくレクリエーション—健康とふれあいの輪をひろげよう—」21世紀に向け、人間の幸せを求めてレクリエーション運動を一層推進するための方策を考える。築城400年祭の記念すべき年に大阪ならではの大会を実施した。
第 38 回	鹿児島県	昭 59.11.3～5	「燃える太陽、豊かな海にふれあいひろげてぬくもりを」を大会テーマに「レクリエーションの意義や重要性を認識し、その普及と活動を通してレクリエーションの日常化を図り、心身ともに健やかでやすらぎあるくらしをめざして、ぬくもりに満ちたふるさとづくりを推進する基調としたい」をめざしている。
第 39 回	三重県	昭 60.10.26～28	「こころのふるさと、豊かな自然レクリエーションでひらこう、みんなのいきがい」をテーマに急速に進む高齢化社会に向かって、ひとりひとりの生きがいとは何か、あたたかい人間関係づくりを基調とした生涯教育としてのレクリエーション運動の方策を模索した。
第 40 回	沖縄県	昭 61.10.24～26	「国際化時代におけるレクリエーションの果たす役割」をテーマに40回の記念大会として視野を日本に限らず世界に広げ、国際的見地からレクリエーションの課題を考える。グレゴリー・クラーク氏の「レクリエーション・平和・日本の未来」の特別講演。沖縄ならではのエメラルドグリーンを十分に活用した海洋レクリエーションを取り入れた。大会を記念して「ふれあい音頭」を県レクリエーション協会で作成し発表した。
第 41 回	山形県	昭 62.10.16～18	「VIVA ふるさと—レッツエンジョイレクリエーション」をテーマに、全国二巡回の最初の大会として新しい企画で開催した。これまでの研究協議にかえて、優良団体事例発表、雪国のレクリエーション紹介、レクリエーションスポーツ紹介を取り入れるとともに、日本レクリエーション協会創立40周年を記念し記念歌の発表を行なった。また、昼食時は、山形名物「いも煮」を食べ、食文化に触れながら交流を深めた。
第 42 回	北海道	昭 63.8.20～22	「未来へつなぐ北のつどい、ふれあいの輪」を大会テーマに第1回スポーツ・レクリエーション祭を兼ねて開催された。「生涯スポーツを考える」をテーマに開かれたシンポジウムでは、将来あるべきスポーツ・レクリエーション運動について、会場内からも活発な意見がのべられた。
第 1 回 (第 43 回)	福岡県	平元 .8.25～27	「ふるさと創生と生涯スポーツ・レクリエーション」をテーマに第1回全国レクリエーション研究大会として開催された。これまでのレクリエーション大会と違い、研究大会の名のごとく、各領域、種目での研究協議が熱心に繰りひろげられた。
第 2 回 (第 44 回)	京都府	平 2.9.22～24	「きょうから21世紀にはばたく生涯スポーツ・レクリエーション」をテーマに第2回全国レクリエーション研究大会京都大会が開催された。本大会は、財団法人日本レクリエーション協会総裁三笠宮崇仁親王殿下が三笠宮寛仁親王殿下と交代される記念すべき大会であった。
第 3 回 (第 45 回)	新潟県	平 3.8.22～24	「ふるさとにあたらしいおきと いきがいを…」をテーマに21世紀を展望した“ふるさと”づくりをめざして開催。本大会からシンボルマークが制定され、水の都新潟の特徴をいかした種目を多く取り入れた大会であった。

全国レクリエーション大会のあゆみ

第4回 (第46回)	仙台市	平 4.9.25～27	「さんさん いきいき ときめくであい」をテーマに、余暇生活の充実とゆとりと生きがいのある生活の実現をめざして開催された。今回より新たに余暇生活開発部会が発足し、指導者の育成も含めた、これからの社会を見通した活発な活動が繰り広げられた。
第47回	東京都	平 5.9.24～26	大会名を「全国レクリエーション大会」にもどして「生きがい健康づくりと活力のある地域社会の創世」をテーマに、東京都多摩地区17市で開催され、全国から15,000名が参加した。大会は7研究協議部会と25の種目に分かれ活発な活動が展開されたが、多摩地区で開発された多様なニュースポーツ種目と、ドッジボール、伝承ゲームが加わり、子どもから高齢者まで幅広い参加者があった。
第48回	島根県	平 6.9.23～25	「悠悠と遊遊と学ぶ神の里」をテーマに、神々の集う秋の出雲路で展開された大会は、「ふれあいハゼ釣り大会」などの協賛行事を含め、約8,000人が参加した市民参加型大会。実践活動10種目のほか、領域部会は、生涯スポーツ研究部会などの6部会。特別プログラムとして、「21世紀のレクリエーションの展望を語り合う」や協賛プロなど、新しいレクリエーション大会のあり方の試みが随所に見られた大会であった。
第49回	熊本県	平 7.11.10～12	「余暇時代における豊かなライフスタイルを求めて」をテーマとして、余暇時間の増大により生涯スポーツ・レクリエーション活動に対する期待の高まる中で指導者として、愛好者としてどのように支援していくかを研究協議及び実践活動を通して行なった。なお、開・閉会式を中日の総合式典として内容充実を図るとともにユニークな協賛種目バスエクスカッション等大会全般にわたり「火の国」熊本の躍動感あふれる大会を県内外約7,500人の参加者と共に楽し過ごした。
第50回	愛知県	平 8.9.13～15	「21世紀の生涯スポーツ・レクリエーション」をテーマに県内外から12,000人が参加し、半世紀を総括する記念すべき「第50回全国レクリエーション大会IN愛知」を開催した。とりわけ、特別プログラムとして総裁三笠宮寛仁親王殿下の基調提案をもとに「レクリエーション・サミット」が開催され、活発な討議の結果「サミット共同宣言」として閉会式に高らかに発表され、レクリエーション運動の再構築をめざすことを確認する大会となった。また、大会テーマソング「明日へ」が制定され、47都道府県協会旗が開会式で入場。
第51回	北九州市	平 9.11.1～3	新たな半世紀の第一歩である第51回大会は、大会テーマを『共に生きる』社会、「共に遊ぶ」文化』とし、レクリエーション運動の原点でもある手作りの企画運営と市民参加を目指した。また、新たな試みとして、フォーラム部門では「ネイチャーレクリエーション」を、種目別交流部門では「パドルテニス」「ユニカール」「フィンスイミング」を実施。大会当日は天候にも恵まれ、全国から16,000名の参加者でにぎわった。
第52回	愛媛県	平 10.9.4～6	リニューアル2年目の第52回大会として「感動」と「生きがい」市民参加のレクリエーションをテーマに、松山市を中心に2市4町で開催。高齢化社会を踏まえ、「福祉」を大会コンセプトに研究フォーラム4部門・種目別全国交流大会15部門・特別行事6部門、一般市民参加の「ふれあいイキイキ健康フェスタ」に全国から20,000人が参加、民間主導型の愛媛らしさを演出したホットな大会となった。
第53回	奈良県	平 11.9.3～5	「咲かせよう！21世紀へ 大和のくからレクの花」をスローガンに「市民と共に創り、楽しむレクリエーション」のテーマのもと、種目別全国交流大会17種目、リニューアルされた35セッションに及ぶ研究フォーラム、特別事業等に延べ25,000人余の参加者を得て、初秋の大和路をレクの花でいっぱいにした。
第54回	群馬県	平 12.10.27～29	20世紀最後の開催となった第54回大会は、大会テーマを「21世紀へかける生きがい みんなのレクリエーション」として、「さわやかな 風と 光と 友情と」のスローガンのもと、手づくりによる企画運営と開催日が群馬県民の日とも重なり、県民参加によるレクリエーションの交流を目ざした。開会式には交流種目の実演紹介を取り入れ、種目別全国交流大会ではフォークダンス5種目の実施による18種目、29セッションの研究フォーラム、5種目の特別協賛行事の他、群馬交響楽団の歓迎コンサート、イベント等開催。36,000名の全国の参加者と交流を図った。
第55回	香川県	平 13.10.26～28	新しい世紀に輝く希望の第一歩となる55回全国大会は、瀬戸の都、高松市を主会場として開催。「2001 レクで拓く 新世紀」の大会テーマのもと、「空海に学ぼう 心のふるさと さぬきの国から」をスローガンに、全国から4万余名を越える参加者があった。29におよぶセッション（13の公開セッションを含む）があった研究フォーラム、18の種目別全国交流大会、サンポート高松を中心に実施された「サンポート レクフェスティバル 2001」の特別行事、県民スポーツ・レクリエーション祭や高松市トリムの祭典、森の文化祭の特別協賛行事等と多彩な内容で展開された。
第56回	埼玉県	平 14.11.8～10	大会テーマとスローガンを一体化して「レクの花 見事咲かそう 彩（あざ）やかな 未来へ」というスローガンのもと、県南5市20の会場で手づくりによる企画・運営を行った。送迎バスに頼らず公共交通機関を利用して参加できる会場を設定した事、東洋一を誇る「さいたまスーパーアリーナ」に5,800名近くの参加者を迎えて総合開会式が行われた事、同会場で行われた種目別日本民謡全国交流大会には5,500余名の参加者があったことは特筆すべきことである。3日間の参加者は53,234名であった。

全国レクリエーション大会のあゆみ

第 57 回	広島県	平 15.9.19～21	「レクリエーション拡命～あなたから ひろしまから～」を大会テーマに、レクに集う仲間による手作りの大会であったが、全国から3万人の参加者で盛り上がった。大会は“私が変われば社会も変わる”をモットーに、自分が変わる「拡命」を目指し、14の種目別交流大会と25のセッションによる研究フォーラム、だれもが楽しめる特別事業関係を実施し、今回のテーマである「拡命」が意味するものを広島から全国に発信した。
第 58 回	鳥取県	平 16.9.18～20	「鳥取に きんさい みんない あそびんさい」の大会スローガンのもと、ボランティアスタッフを公募で募るなど手作りの大会を目指した。鳥取県発祥のニュースポーツ「グラウンド・ゴルフ」を初めて種目別交流部門に加えたり、早朝や夜に開催する研究フォーラムセッションなど、新たな試みを実施。種目別全国交流大会12種目、研究フォーラム32セッション、5つの特別行事等、多彩なプログラムを実施し、全国各地から3万人の参加者で賑わった。
第 59 回	東京都	平 17.9.17～19	東京での開催が4回目となる第59回全国大会を「Enjoy Discovery in Tokyo」のテーマを掲げて開催し、東京体育館メインアリーナにおける総合開会式をはじめ、東京都庁45階の「展望室」における都心の夜景をごちそうとした新しい形の「交歓の夕べ」などを試みた。また、21種目の種目別全国交流大会や23の研究フォーラムを中心に、誰もが気軽に参加し、楽しんでいただけるプログラムを展開し、38,000余人にのぼる多くの方々交流与友情を深めていただき、思い出多い大会となった。
第 60 回	青森県	平 18.9.16～18	楽しもう 広げよう！ 青い森から レクの「WA」を！のスローガンに、第60回全国レクリエーション大会INあおもりは開催された。青森県レクリエーション協会会員の手づくりによる大会は、ば・る・るプラザ青森での総合開会式に始まり、13種目の種目別全国交流大会、17セッションの研究フォーラム、6公募セッションと特別行事、特別協賛行事が、青森市を主会場に3日間に渡り県内外から2万余名の参加者を迎え開催できた。大会企画・運営等には、会員は勿論一般ボランティアや多くの課程認定校学生の協力を得ることが出来た。また、総合開会式アトラクション出演者（団体）や特別行事出演者（団体）にあっても、大会を大いに盛り上げていただいた。本大会の開催は、県民にレクリエーションを広げ・伝え・理解していただく最良の場であった。
第 61 回	神奈川県	平 19.11.2～4	神奈川での開催が3回目となる第61回全国大会を「レクの風 カモメがはこぶ全国へ」をスローガンに、港と夜景が美しい国際都市「横浜」の神奈川県民ホールにおける総合開会式をはじめ、世界最大級のチャイナタウン「横浜中華街」での「交歓の夕べ」など全国の仲間との交流と感動を図った。また、21種目の種目別全国交流大会や28の研究フォーラムを中心に、ウォークラリーやニュースポーツ体験の特別協賛行事など横浜、川崎、鎌倉、藤沢の4市を会場に多彩なプログラムを展開し、全国各地から2万余人にのぼる参加者と交流・友情を深めた
第 62 回	岩手県	平 20.9.13～15	岩手では初めての「第62回全国レクリエーション大会」を「きらめいて 銀河の国から レクの夢」をスローガンに開催された。盛岡駅直結の盛岡市民文化ホールマリオスにて開会式。平泉毛越寺の国の重要無形民俗文化財「延年の舞」で厳かに幕開け。「交歓の夕べ」では「わんこそば」を第44代横綱が同席して熱戦を繰り広げ、「さんさおどり」では参加者も一緒に踊り大いに盛り上がった。23セッションの研究フォーラムはいわて県民情報交流センターアイーナにて、12団体14種目の種目別全国交流大会は盛岡市から花巻市までの体育施設で展開。会員ボランティアや、明るく元気な課程認定校生の「おもてなしの心」が1万人を超える参加者の思い出となり、県民にレクリエーションを理解していただいた意義深い大会であった。
第 63 回	長崎県	平 21.9.19～21	「レクの鐘 鳴らそう ながさき いい出会い」を大会スローガンに43年ぶり2回目の開催。長崎県ならではの財（観光地等）を生かし、県内各地での交流会場を設置した。34セッションの研究フォーラム、17種目13会場の種目別全国交流大会、4種目6会場の特別協賛行事、7種目6会場の特別行事等に県内外から19,000余人の参加があり楽しい「いい出会い」の交流が図られた。今大会では、史上初の試みが展開された。①屋外での「交歓の夕べ」を観光スポットのグラバー園で開催。②大会速報に発行一前日のイベントを号外形式で参加者に情報提供。③大会3日間のふりかえりと題して閉会式のプログラムに取り入れ、スライド形式で大会内容を紹介するなど、新しい試みが見られた。
第 64 回	静岡県	平 22.11.6～8	静岡県初となった第64回大会は、県内11市に亘る広域で開催し、会場となった各市に積極的なご協力をいただいた。本大会はユニバーサルデザインを取り入れた大会を目指し、研究フォーラム30セッション、種目別全国交流大会19種目、特別行事9行事、特別協賛行事9種目を実施した。富士山の世界文化遺産登録を目指すセミナーや“発見!! 家康公ゆかりの地を歩いてみよう”など、静岡県の歴史・風土を盛り込んだ内容となった。大会スローガンは「ふじのくに ひと・ゆめ・レクのシンフォニー」とした。メイン会場となった「グランシップ」で行われた開会式では、富士山を表した大きな舞台装飾が見守るなか、都道府県レク協会旗が堂々の入場行進を行い、全国47都道府県の旗がステージに集結した。開会式・閉会式とも好評のうちに終了し、参加者は延べ3万余名となった。
第 65 回	滋賀県	平 23.9.23～25	「あふれ出る レクのいぶきを びわ湖から」を大会スローガンに、第21回大会以来44年ぶりの開催となった。今大会は、式典や研究フォーラムなど随所に滋賀らしさを出すとともに、県レク加盟団体や指導者、龍谷大学の学生グループ「レク龍」の協力も得て、すべて手作りの大会運営を行った。天候にも恵まれ、25のセッションと協賛行事からなる研究フォーラム、14種目の種目別全国交流大会、特別行事2行事、特別協賛行事4種目を実施し、全国から1万人を超える参加者との交流ができ友情を深めることが出来た。また、本大会を「東日本大震災復興支援事業」と位置づけ、被災された方々の復興を支援するとともに、参加費の一部を「東日本大震災レクボランティア支援募金」として、現地で活動するレクボランティアのための募金とした。

全国レクリエーション大会のあゆみ

第 66 回	福井県	平 24.9.21～23	49年ぶりの福井での2回目の大会。 「いっちょらい 福井 (291) でつむぐ レクごころ」のスローガンのもと、福井らしさを出そうと福井弁や福井の文化、工芸、名所、そして食を大会プログラムの随所に取り入れ、「福井のいっちょらい」をアピールし、また、参加者には、どのような生活も前向きに捉える独楽吟の歌人・橘曙覧のように大会を楽しんでもらおうと、スタッフ一同、一丸となって取り組みました。県内外から延べ15,000人の参加者を得て、研究フォーラム34セッション、種目別全国交流大会12種目、特別行事18・特別協賛行事6・協賛行事8の行事を実施しましたが、特に交歓の夕べをお弁当つきとして屋台で使えるチケット制にしたこと、閉会行事を半日の内容にして一般参加者を呼び込んだこと、特別行事を多くして加盟団体とともに行ったこと、セッションの中にコーディネーターの受講生の企画（プログラム）を4つ取り入れたこと等、いろいろ工夫を凝らしたのが特徴です。それぞれの持っている力は小さいけれど、スタッフ・学生・参加者のエネルギーを「福井でつむぐ」全国レク大会となりました。
第 67 回	福岡県	平 25.10.25～27	「～楽（あそ）び・歓喜（よろこ）び・咲（わら）う～魅せます！スポーツ・レクリエーション可能性と未来」をスローガンに掲げ開催。全都道府県と中国・韓国から1万2千人を超える参加があり研究フォーラム55セッション、種目別全国交流大会及び特別協賛行事23種目、特別行事・協賛20行事を開催。延べ3万3千人を超える大規模大会となった。 大会は107歳寿地三郎先生の特別講演で始まり、基調提案「レクリエーションの可能性と未来～レクリエーションのマスターキーとは～」や福岡大学付属若葉高等学校ダンス部のスペシャルアトラクションに「さすが福岡！」の声を聞くことができた。フィナーレは、参加者全員で東日本大震災復興支援曲「花は咲く」を踊り、第68回福岡大会の成功を祈り福岡大会の幕を閉じた。
第 68 回	福島県	平 26.9.19～21	「福島に 集い咲かそう 笑顔の輪」。福島県で初めて開催した大会は、東日本大震災と原子力発電所の事故からの復興と、それに伴う風評被害の払拭を目指した大会となった。 福島市音楽堂での音楽にあふれた開会式に始まった大会は、晴天のもと、福島駅前通り特設ステージにおける屋外閉会式で幕を閉じた。研究フォーラム45セッション、種目別全国交流大会18種目、特別協賛行事17種目、そして20事業にわたる協賛行事等、100を超える事業が県内各地で繰り広げられ、延参加者数は、4万人に手が届くほどであった。 初めて福島県で開催した全国大会をスタッフとして経験した若い有資格者が、今後のレクリエーション運動の大きな担い手となっていくことが期待される意義のある大会であった
第 69 回	長野県	平 27.9.19～21	第69回大会は、「日本の屋根 つらなる山脈（やまなみ）つながる友情 あふれる笑顔！今ここで」を大会スローガンに県下14市町村を会場に開催した。 長野県は平均寿命男女とも日本一の長寿県であり「健康」をキーワードとしたセッションも多数用意した。 平成27年は7年に一度開催される「諏訪大社御柱祭」の前年ということもあり、御柱を曳く氏子の力を結集させる木遣の「ヨイサ！ヨイサ！ヨイサ！」の掛け声が開会式場に響き渡り、迫力ある映像と共に会場が一体感で満ちあふれ、心に残る大会であった。 また、学生ボランティアの爽やかな笑顔やホスピタリティあふれるサポーター・ボランティアにより“おもてなし”にあふれた大会でもあった。
第 70 回	岐阜県	平 28.9.23～25	岐阜県初開催となった本大会では、「清流に 楽しさ 笑顔 夢いっぱい」の大会スローガンのもと、大会史上初県内42の全市町村を会場とし、過去最大規模の38の種目大会と40セッションの研究フォーラムを実施した。また、会期前にはミナレクキャラバン隊が全市町村を訪問したり、イベントを行ったりと、レクリエーションの楽しさを伝えるための多彩なプログラムを展開した。その結果、大会期間中と会期前の参加者数は17万人を超え、過去最大の参加人数となり、第70回という節目にふさわしい記念すべき大会となった。
第 71 回	北海道	平 29.9.15～17	「北の大地 ふくらむ ひろがる レクの輪」を大会スローガンに、第42回大会以来、函館では29年ぶりの開催となった。北海道新幹線開通を記念して、函館市役所からの大会開催の要請を受けたことが出発点となったが、併せて、近隣の北斗市、七飯町、森町、道央の恵庭市を含め5市町を会場に行った。スローガンの通り、子どもから高齢者までレクの輪が広がることを願い、開会式のアトラクションでは、幼稚園の年長、高校生、大学生、成人、高齢者と登場し、様々なパフォーマンスを繰り広げ、手づくりのおもてなしにぬくもりと感動を覚える開会式となった。9種目の全国交流大会、36のセッションからなる研究フォーラム、4種目の特別協賛行事等を実施し、全国から1万人を超える参加者を迎え、スポーツや実践発表等で交流を深めることができた。
第 72 回	高知県	平 30.9.21～23	全国レクリエーション大会史上、72回目で初めての開催となった高知県大会。幕末維新博を県下一斉に展開中の最中、39の研究フォーラムセッション、11種目の種目別全国交流大会、9種目の特別協賛行事、5特別行事が盛大に開催された。「高知県らしさをいかに押し出していこうか」をテーマに、「土佐のおきゃく」「鳴子作り」、中学生による「神楽の伝承」などなど盛りだくさんなプログラムを実施した。また、期間中の3日間は天候にも恵まれ、豊かな高知の自然に触れていたただけのことは何よりであった。 スローガンの「維新の志士と レク談義 まっこと高知はおもしろい」のように開放的な人間性と遠慮のないおせっかいで、土佐流おもてなしもできたのではないかと考え、想定以上の意義ある大会であった。

製作物 2



チーフ用ポロシャツ 表



スタッフ用ポロシャツ 裏



チーフ用キャップ



スタッフ用キャップ



大会記念品トートバッグ



のぼり旗

編集後記 - 昭和の町から、感謝を込めて -

時は平成29年3月、突如沸き起こる全レク宮城大会の話題。緊急理事会の議論を経て、翌日県庁担当課に伺い指導を仰ぐ。結果、実施するものであれば、現在の県レク協会の体力に応じた大会にしようということで一致。以来、三役会、理事会、総会等での議論を経て、公益財団法人日本レクリエーション協会と一体となり準備に着手。

宮城県では、昭和29年（第8回大会）、平成4年（第4回研究大会／第46回大会）に次ぐ、3度目の大会である。第8回大会の主体は宮城県保健体育課（当時）、第46回大会は仙台市スポーツ振興課で、いわゆる行政主導型の大会である。

ある種の勢いで開催決定が下されたものの、理想と現実は程遠く、準備を重ねれば重ねるほど様々な課題が山積し、本当に県レク協会主体で実施できるものなのか、心配事が尽きない日々を過ごす。

結局、「大会企画準備室」、「準備委員会」を経て、令和元年5月の「実行委員会」の設置をみたが、特に、人的な要素と財源確保の2点は、最後の最後まで尾を引くことになった。

このような時間を重ね大会を無事に終え、こうして報告書の編集作業に勤むことができるのも、宮城県教育庁スポーツ健康課職員の皆様の子細に及び御指導があればこそと、改めて感謝を申し上げる次第である。

併せて、会場確保をはじめ懇切丁寧に相談に乗ってくださった公益財団法人仙台市スポーツ振興事業団はもとより、仙台市をはじめとする関係自治体、関係機関・団体の関係者の皆さま、多くのボランティアの皆さま方からひとかたならぬご指導とご支援を賜り、改めて心から感謝を申し上げたい。

昭和、平成、そして令和元年最初の大会、更には全国二巡目最初の大会となった今大会を通じて、日本のレクリエーション運動の歴史と未来を垣間見るとともに、人と人との繋がり、世代間の交流、関係団体間の連携の必要性をまさに痛感すると同時に、関係者の一人として準備に関わられたことを事務局員一同誇りとした。

「ありがとう 復興進む 伊達のまち。みんなのチカラ レクちから。」を大会スローガンに掲げた本大会が、参加者ひとり一人の心の元気づくり、宮城県、ひいては日本の元気と平和に繋がる細やかな1ページになれば幸いである。

第73回全国レクリエーション大会in宮城実行委員会事務局
佐藤雄司、山内直子、佐藤繭子、佐藤聡明

第 73 回全国レクリエーション大会 in 宮城 2019 報告書

発刊 令和 2 年 3 月 1 日

発行 第 73 回全国レクリエーション大会 in 宮城 2019 実行委員会事務局
〒 981-0913 仙台市青葉区昭和町 3-15 ネオプラザ北仙台 429 号

印刷 広研印刷株式会社

(お礼) 本大会研究フォーラムは、東北福祉大学の特別共催をいただき実施しました。関係者の皆様には心より感謝申し上げます。



つなげていきます スポーツへの想い

スポーツくじの収益は、
日本のスポーツを育てるために
使われています。

スポーツくじ  

